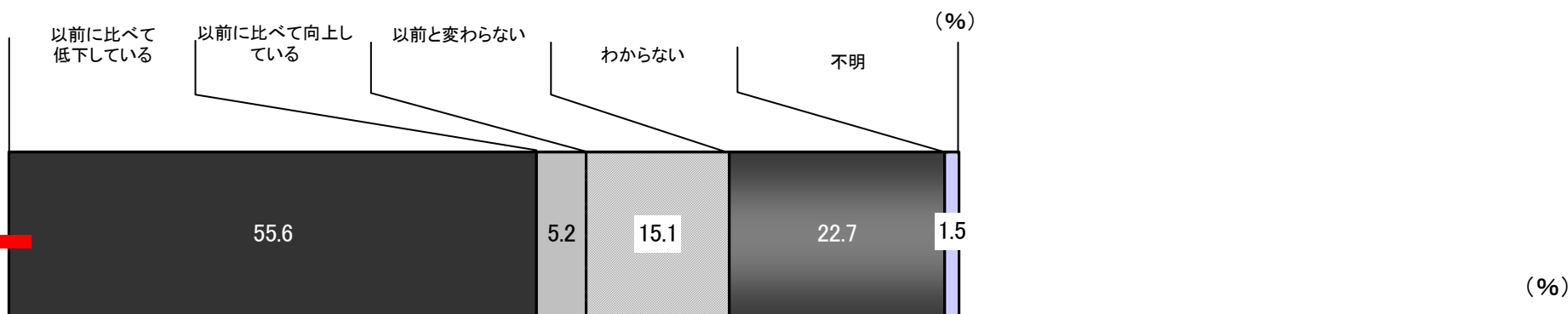
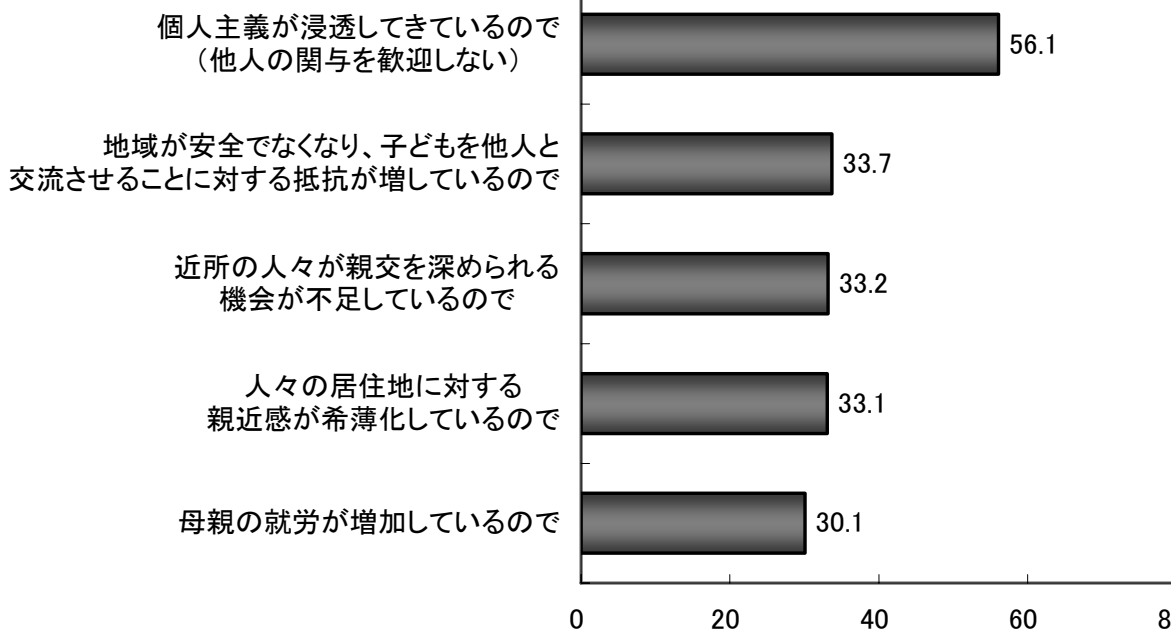


地域の教育力に関する意識

保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、過半数が「以前に比べて低下している」(55.6%)と回答している。一方、「以前に比べて向上している」(5.2%)、「以前と変わらない」(15.1%)は低い割合にとどまっている。



その理由

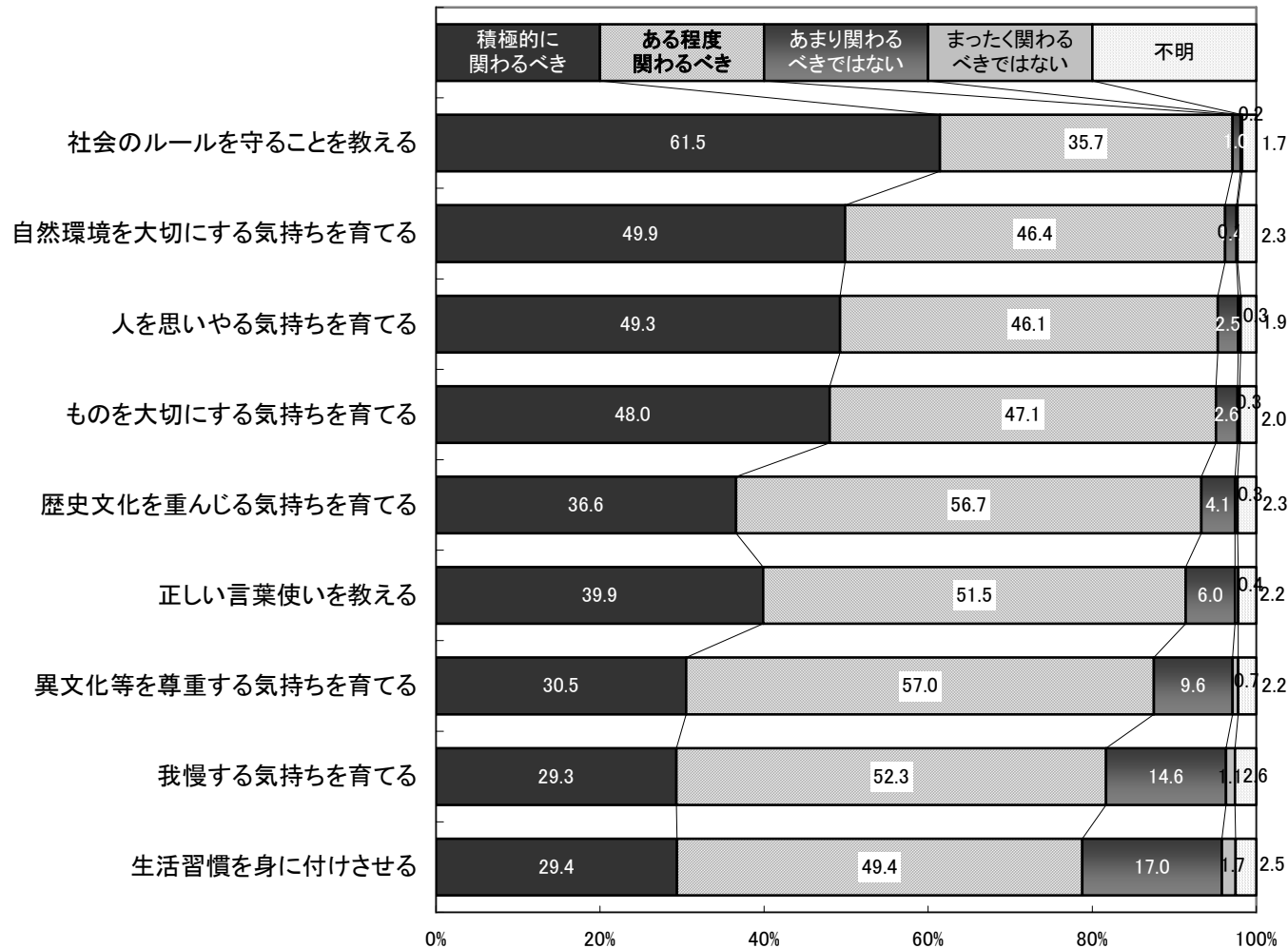


地域が果たすべき役割

「社会のルールを守ることを教える」について「積極的に関わるべき」が6割以上と最も高い。
 → 保護者は、子どもに対して社会規範を教えることを重視していることがうかがえる。

子ども(小・中学生)を育てる上で地域が果たすべき役割

(%)



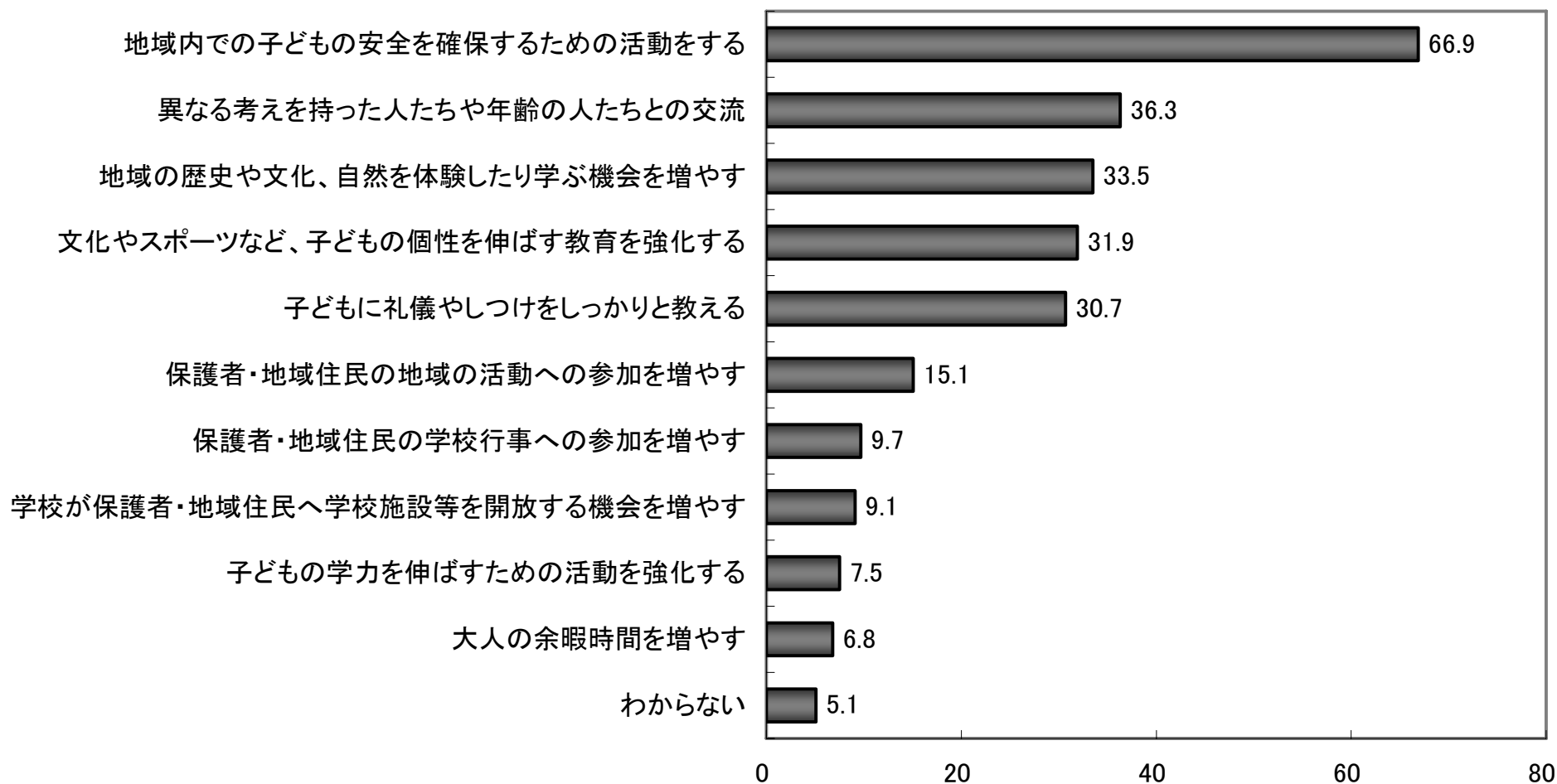
資料: 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)

地域で力を入れるべきこと

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」(約7割)と最も高い。
→ 保護者は、子どもの安全確保に対する関心はきわめて高い。

子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと

(%)



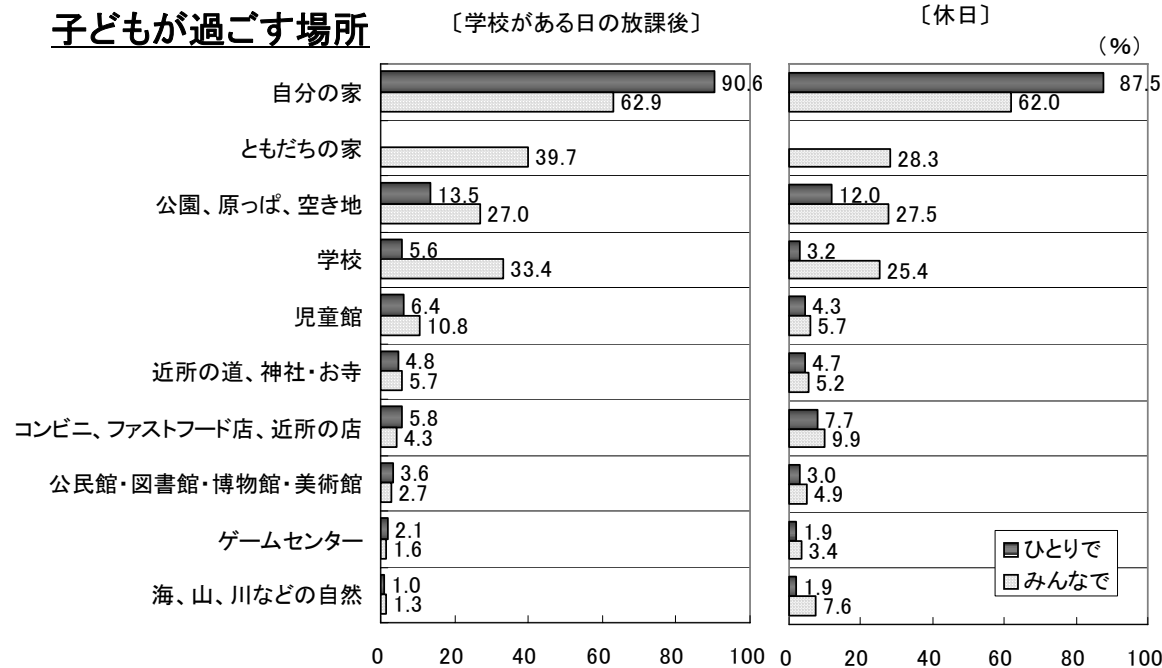
※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

資料:文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)(調査時期は平成17年10月～11月中旬)

子どもが過ごす場所

ひとりで過ごす場所は、平日・土日とも「自分の家」が約9割。
 みんなで過ごす場所は、「家」は約6割、次いで「公園・原っぱ・空き地」「学校」が約3割。
 → ひとりの時もみんなで過ごす時も子どもの活動は屋内中心。

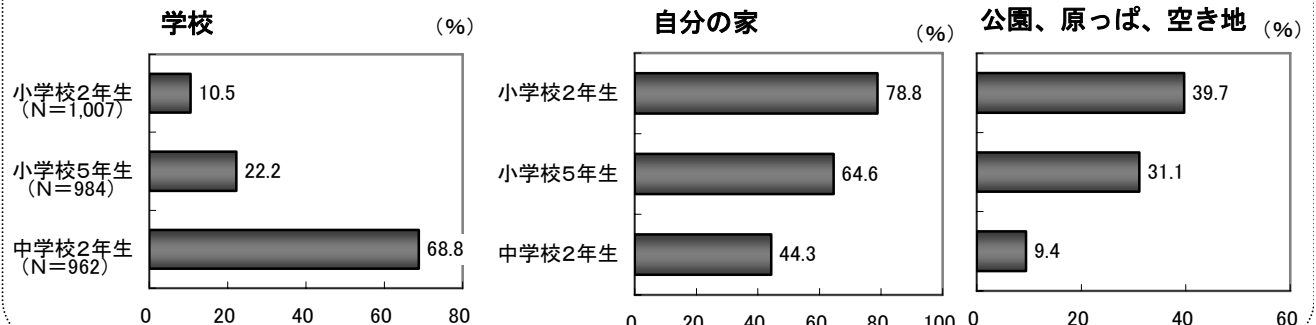
子どもが過ごす場所



学年別の放課後に過ごす場所の傾向は、高学年ほど学校で過ごす割合が高く、低学年ほど自分の家や地域内(公園・原っぱ・空き地)で過ごす割合が高い。

※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

学年によって回答割合に大きな違いが出た場所 (学校がある日の放課後)

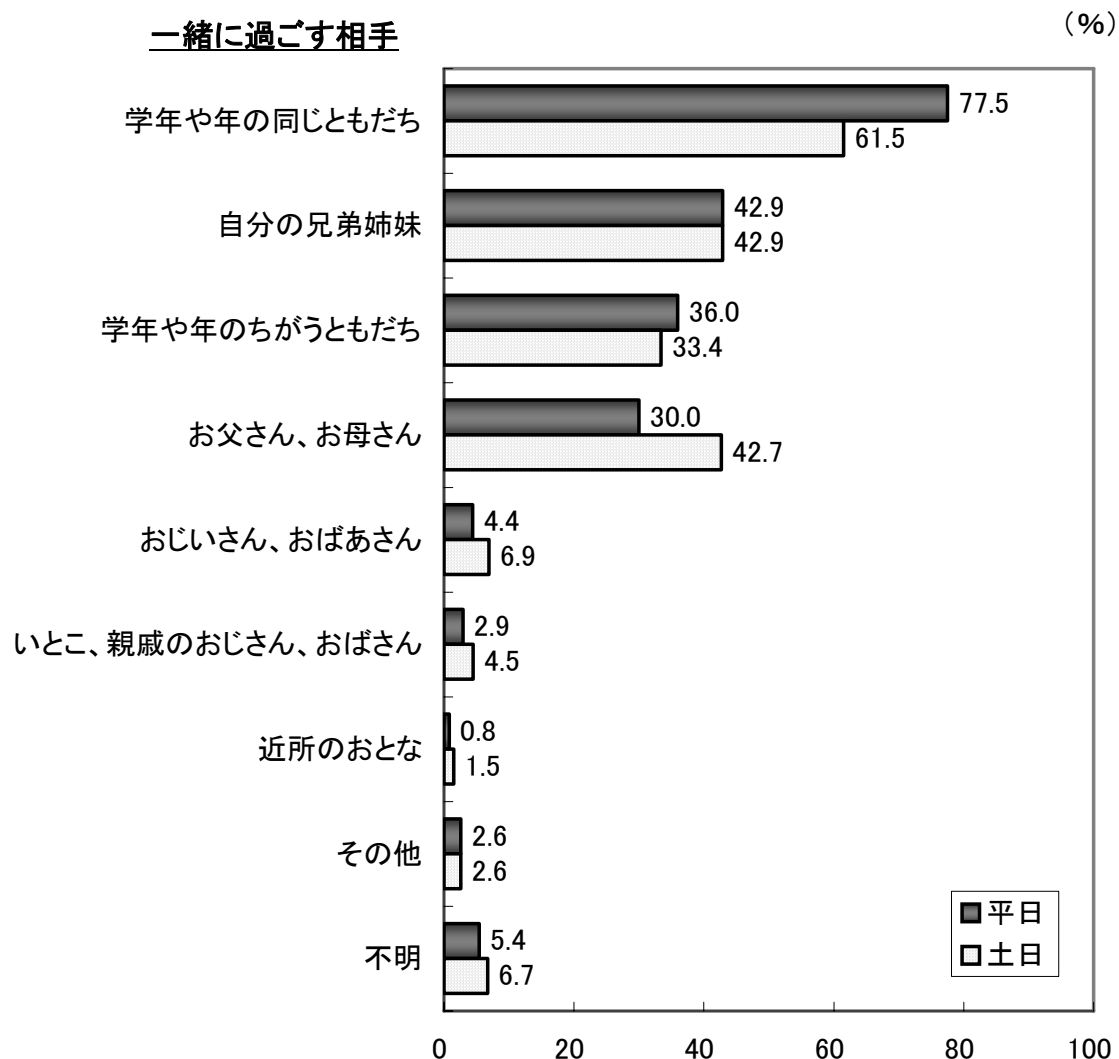


資料: 文部科学省委託

「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)

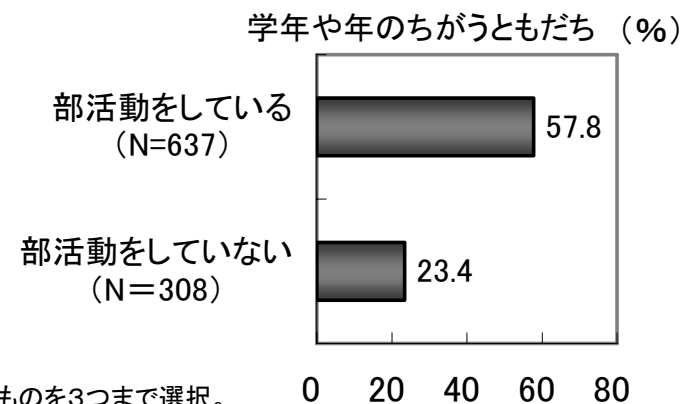
子どもの異年齢とのふれあい状況

放課後、土日ともに「学年や年の同じともだち」が6～7割と最も高い。「学年や年のちがうともだち」は3～4割。 → 子どもは同年齢の友達や家族以外の異世代との交流機会が少ない。



学年別に見ると、学年が上がるにつれ、交流範囲が家族から学校の友達に以降している。また、中学生については、部活動をしている方が「学年や年のちがうともだち」との交流が多い。

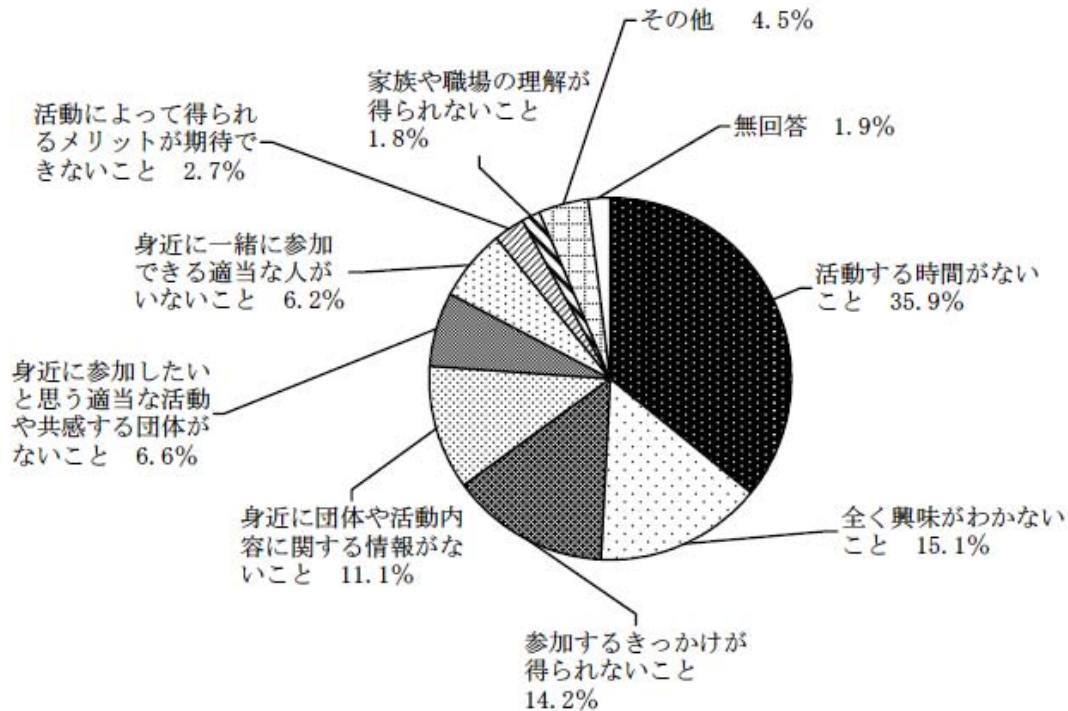
部活動(中2)の有無のクロス



資料: 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年) ※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

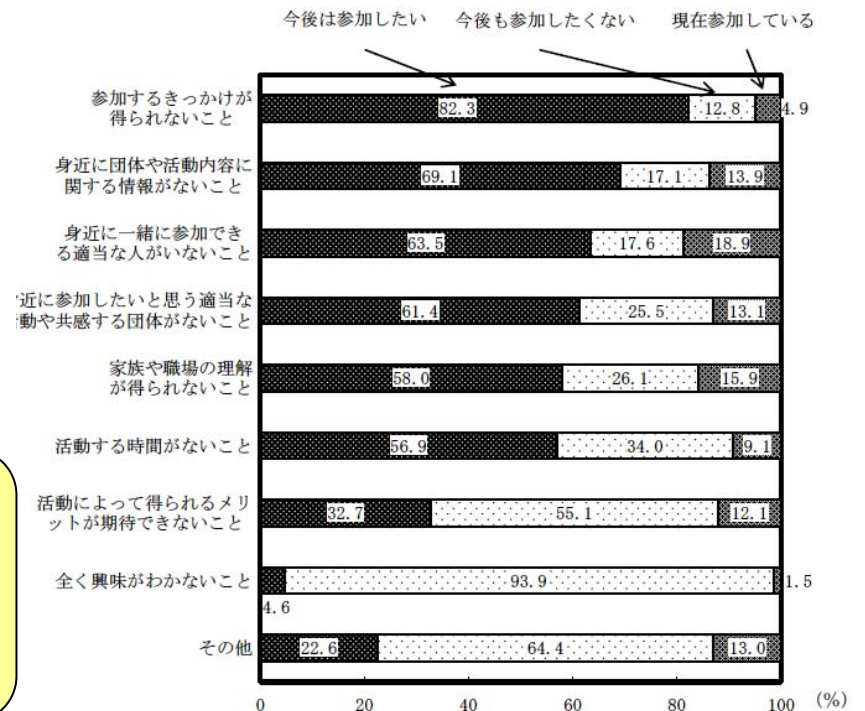
地域の活動などへの参加を妨げる要因

地域の活動への参加を妨げる要因としては、仕事等のために時間がないこと(約36%)のほかに、参加するきっかけが得られないこと(約14%)や、情報がないこと(約11%)などを挙げる人が多い。



参加を妨げる要因として「参加するきっかけが得られないこと」や「情報がないこと」を挙げている人の中には、他の要因を挙げた人に比べ、今後参加したいという希望を持っている人が多い、これらの者は条件が整えば参加する可能性が相当程度あるものと考えられる。

地域の活動などへの参加に関する今後の意向 (参加を妨げる要因別)



「地域子ども教室推進事業」の評価について

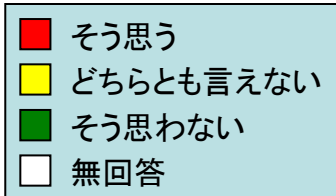
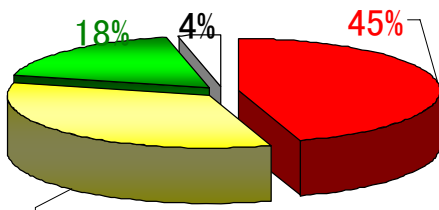
～平成16年度「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書より～

(1) 地域子ども教室に参加した「子ども」へのアンケート

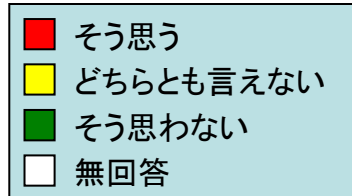
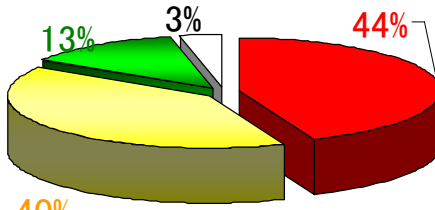
n=3307

あなたは、地域子ども教室に来る前とくらべて、いつもの生活の中で何か変わったことはありますか？

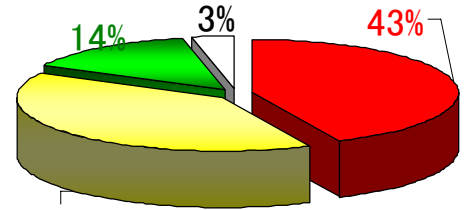
教室のことを家の人と話したりするようになった



学校に行くのが楽しくなった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



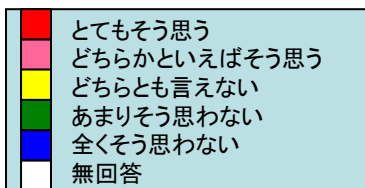
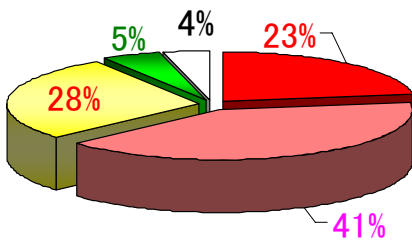
➡ 家庭・学校・地域において、積極的な態度を見せるきっかけとなっている。

(2) 地域子ども教室に参加している「子どもの保護者」へのアンケート

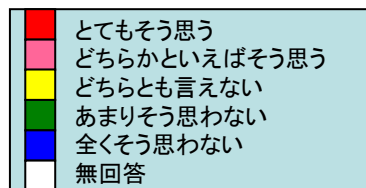
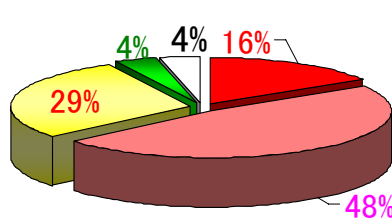
n=1403

お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか？

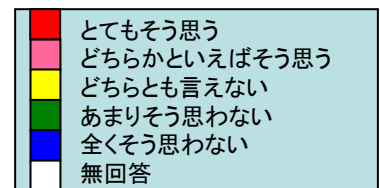
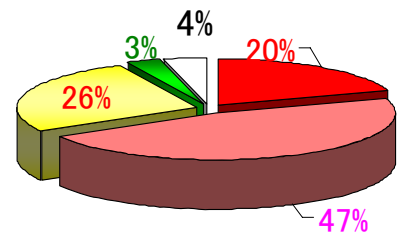
地域の行事に積極的に参加するようになった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



興味のあることは自分で調べたりするようになった



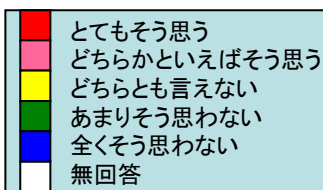
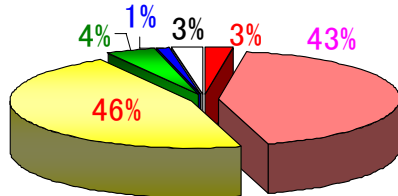
➡ 保護者も地域子ども教室の活動をとおして、子どもの成長を感じている。

(3) 地域子ども教室の活動場所となっている「学校長」へのアンケート n=206

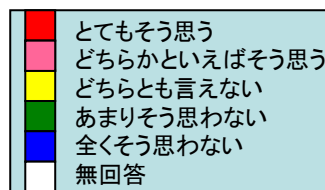
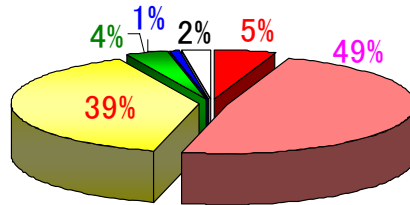
地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、こどもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか？

地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか？

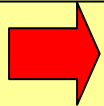
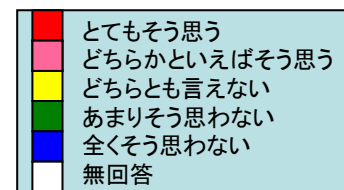
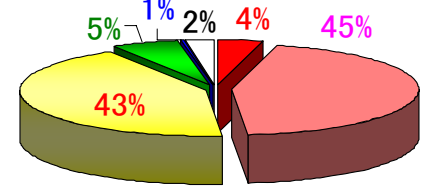
違う学年の友達とよく遊ぶようになったと思う



自分より年下の子どもの面倒をよく見るようになった



学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった



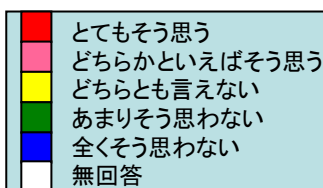
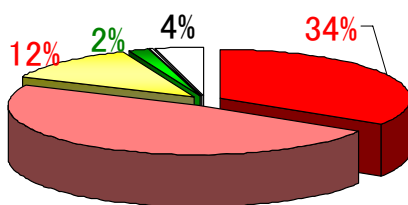
学校長は地域子ども教室の活動により、子どもや地域の大人の様子などが良い方向に変化していると認識している。

(4) 地域子ども教室に指導員等として参加した「地域の方々」へのアンケート

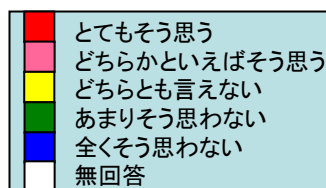
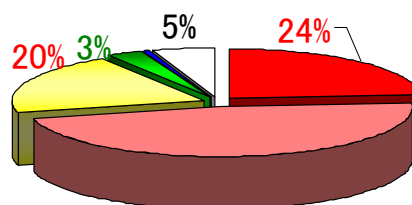
地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方に何か変化はありましたか？

n=1089

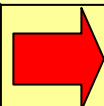
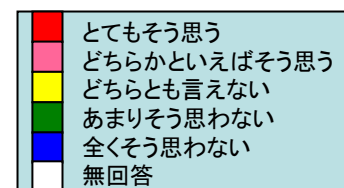
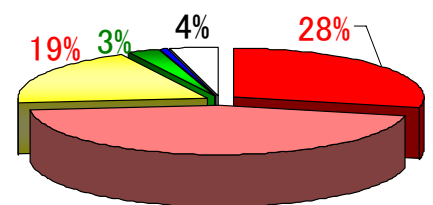
地域の子どもに対する意識や関心が高くなった



子どもの居場所づくりに関する取組に対して関心が高くなった



地域の中に友人・知人が増えた



参加した大人自身も、活動をとおして自分自身の変化を感じている。

「放課後子どもプラン」推進のための連携方策

～文部科学省と厚生労働省の放課後対策事業の連携～

「放課後子ども教室」(文部科学省)と「放課後児童クラブ」(厚生労働省)を一体的あるいは連携して実施するための市町村及び都道府県における具体的な連携方策は以下のとおり。

市町村での連携

○放課後子どもプランを策定し、小学校区毎の円滑な事業を実施

放課後対策事業の「運営委員会」の設置【担当省:文部科学省】

行政(教育委員会及び福祉部局)、学校、放課後児童クラブや社会教育・児童福祉関係者及び地域住民等がプランの策定、活動内容やボランティアの確保等、両事業の運営方法等を共同で実施・検討→**全市町村に設置**

コーディネーターの配置【担当省:文部科学省】

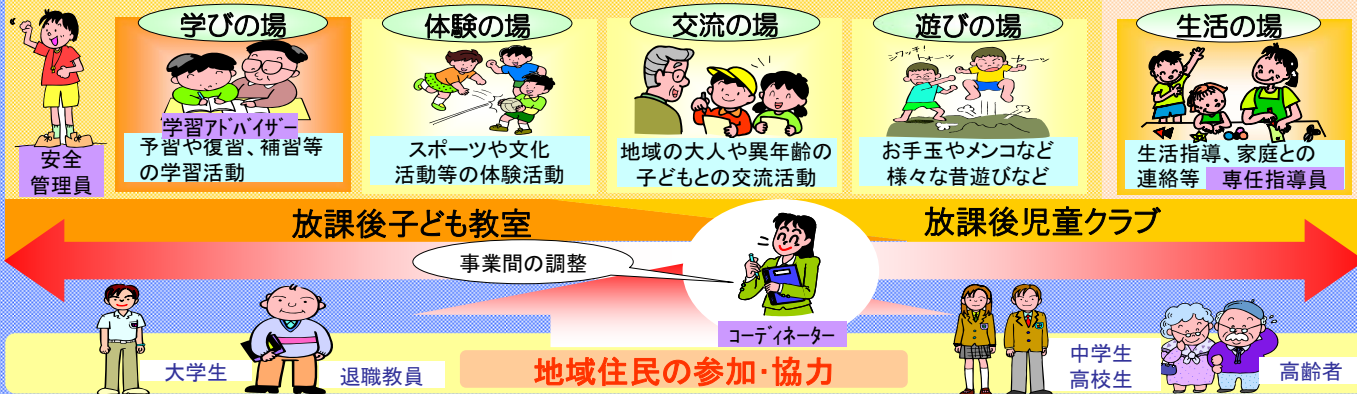
両事業の円滑な実施を図るため、学校や関係機関等との連絡調整、ボランティア等の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの策定等を実施→**全小学校区に配置**

活動場所における連携促進

- ・余裕教室をはじめとする学校諸施設(体育館、校庭、保健室等)の積極的な活用の促進
- ・両事業の関係者と学校の教職員間で、子どもの様子の変化や健康状態、下校時間の変更等の情報交換を促進



「放課後子どもプラン」の実施により、子どもの安全で健やかな居場所を確保、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組の充実



市町村における取組をバックアップ

都道府県での連携

○実施主体である市町村において円滑な取組促進が図られるよう、事業推進に向けた支援を実施

放課後対策事業の「推進委員会」の設置【担当省:文部科学省】

行政、学校、福祉や社会教育の関係者、有識者等が研修の企画等、域内の放課後対策の総合的な在り方を共同で検討→**全都道府県・指定都市・中核市に設置**

放課後子どもプラン指導者(員)研修の開催【担当省:文部科学省・厚生労働省】

これまで事業毎に実施していた指導者(員)研修を合同で開催することにより、プラン関係者の情報交換・情報共有、資質の向上等を推進→**全都道府県・指定都市・中核市で開催**